

E. 沖縄県

1. 広域モニタリング調査

1-1. 広域モニタリング調査地域の位置および概況（図 1-1-1）

広域モニタリング調査地域は沖縄県沖縄島、名護の南方に位置する名護市、恩納村、宜野座村にまたがり、1/25,000 地形図の「名護南部」図幅、標準地域メッシュの 3927-67 に相当する。

当該地域は大きく海域と陸域の二つに分けられる。海域は北西側と南東側に分布し、北西側は東シナ海で名護湾に臨むサンゴ礁が広がり、南東側は太平洋がわずかに図幅に含まれている。陸域は主に北西側と南東側に広がる砂礫台地と、台地に挟まれる沖縄本島の脊梁山地からなる。海岸低地は非常に狭いが、河川沿いに発達した谷底低地の前面や部瀬名岬のようなトンボロ地形に砂州をともしなう低地もみられる。山地は黄色土壌が中心、台地は赤色土壌、赤黄色土壌が主体となっている。

第1回調査時との大きな変化としては、名護市と恩納村でのゴルフ場開発により、常緑針葉樹林および常緑広葉樹林が伐採され、人工草地へと変わったことがあげられる。

1-1-1. 地形・地質の状況

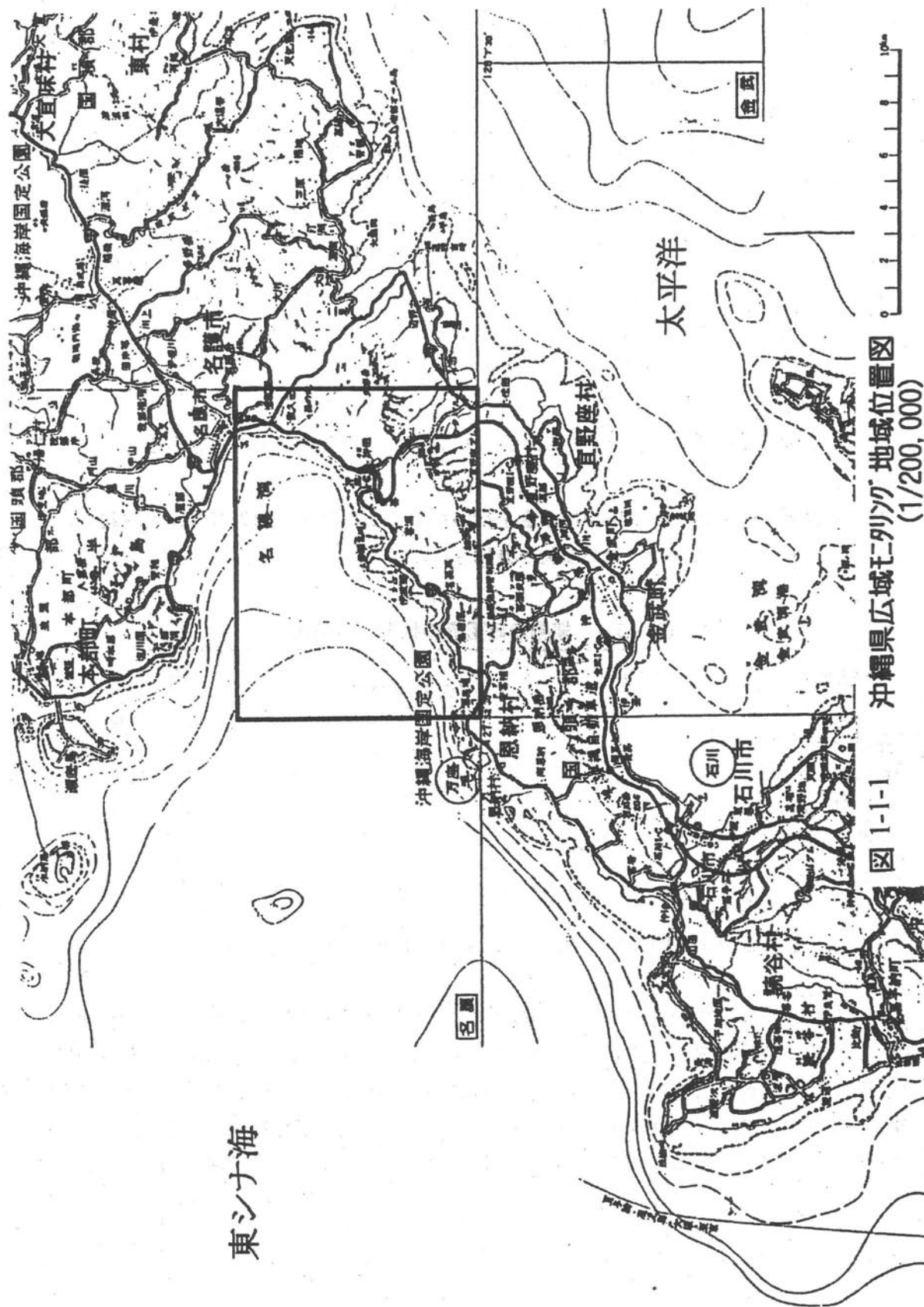
当該地域は、北西側から東シナ海、名護湾に臨むサンゴ礁、海岸段丘、沖縄島の脊梁山地、海岸段丘、太平洋に面するサンゴ礁といった北東-南西方向の地形配列がみられる。脊梁山地の地域内の最高標高は 284m である。

山地の地質は、北部で千枚岩・緑色岩類、中部で粘板岩類、南部で砂岩類で、海岸段丘は同様の基盤を切った上に段丘礫層がのっている。

海岸低地はきわめて狭く、段丘崖が直接海岸線に接しているところが多いが、中小河川沿いに発達した谷底低地の前面や部瀬名岬のようなトンボロ地形に砂州をともしなう低地が見られる。

1-1-2. 土壌の状況

土壌については、山地は黄色土壌が中心、丘陵地台地は赤色土壌、赤黄色土壌が主体となっている。谷筋は岩屑土となっているところもある。海岸に近い低地では低地土壌やグライ土壌が分布する。



1-2. 植生

第2回調査時の広域植生図を図1-2-1に、植生改変図を図1-2-2に示した。

植生は大きく分けて以下の3つに区分される。

- ①脊梁山地にそって広がるリュウキュウアオイースダジイ群集
- ②台地部分と脊梁山地に縞状に分布するリュウキュウマツ群落
- ③台地と小河川沿いの低地に広がる農耕地および市街地

第1回調査時と比較すると、名護市許田、恩納村伊武部、恩納村安富祖でゴルフ場開発により、リュウキュウマツ群落、リュウキュウアオイースダジイ群落および農耕地の一部が人工草地へと改変された。その他、目立った植生の変化はなかった。

なお、当該地域に出現した植生は第1回調査時と変わらなかった。

1-3. 植物相

第1回調査および第2回調査で確認された植物相の分類群ごとの科数と種数を表1-3-1に示した。

第1回調査では文献による植物相調査を行わなかった。第2回調査では、現地調査および2つの文献により28科47種の植物が確認された。

表1-3-1 植物の確認種の状況（沖縄県）

分類群	第1回	第2回 (新規確認種)	第2回
シダ植物	—	6科7種	6科7種
裸子植物	—	1科1種	1科1種
双子葉植物	—	17科32種	17科32種
単子葉植物	—	4科7種	4科7種
合計	—	28科47種	28科47種

1-4. 動物相

第1回調査および第2回調査で確認された動物相の分類群ごとの科数と、表1-4-1に示した。

第1回調査では、1991年以前の文献調査により哺乳類6科8種、鳥類45科180種、両生・は虫類11科25種、昆虫類43科88種を記録し、魚類については未確認であった。第2回調査では、新たに発行された2つの文献および現地調査により、哺乳類2種、鳥類2種、魚類2科2種、昆虫類2科3種が確認された。その他、沖縄県のみで調査を行った甲殻類および貝類については、新たに2科4種が確認され、あわせて137科367種となった。



金

1:25,000 名護南部

著作権所有権発行者 国土地理院 許可なく複製を禁ずる
平成4年1月1日発行 (3色刷) 1刷

— 561 —

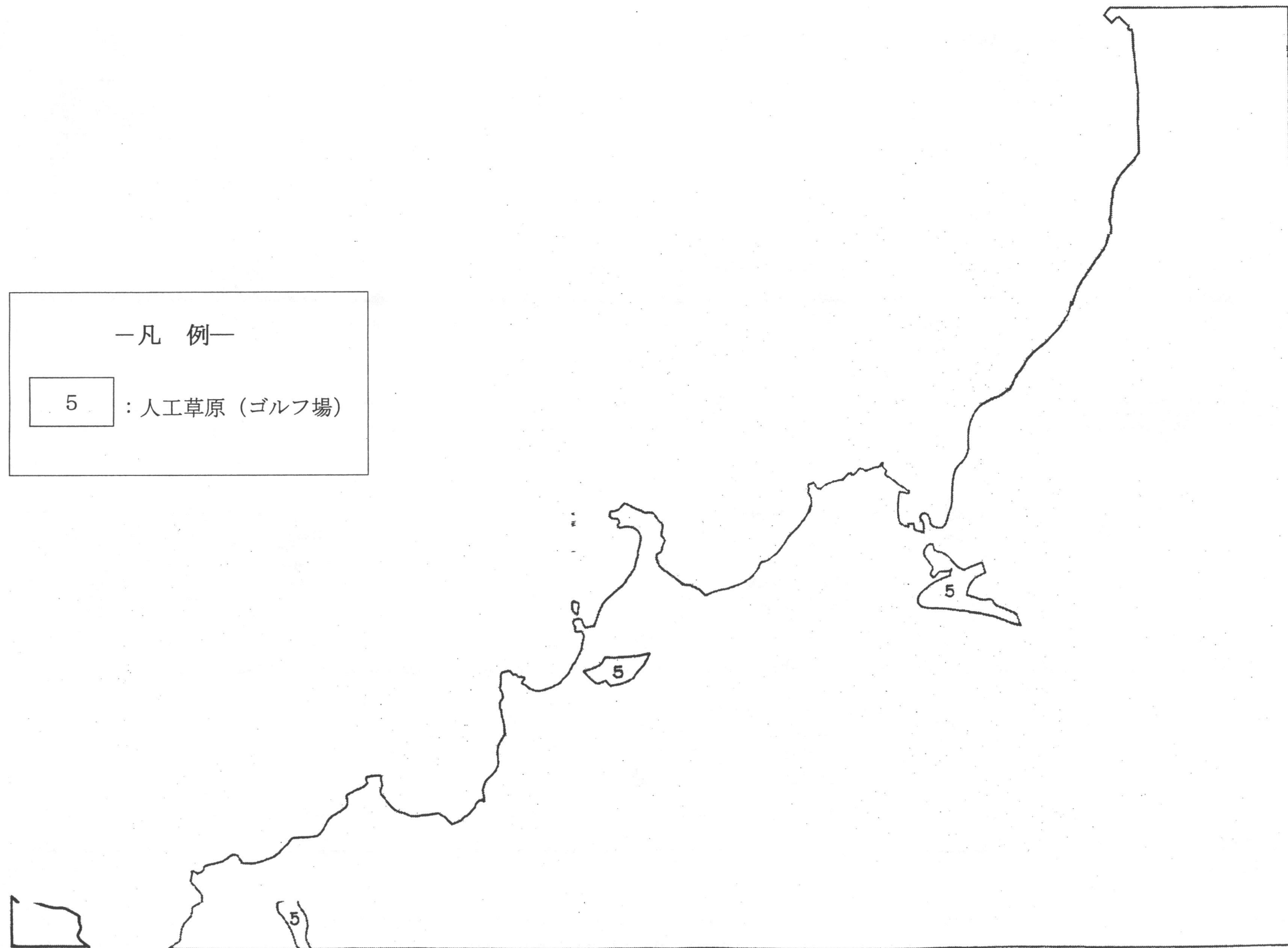


図 1-2-2 植生改変図(第 2 回・沖縄県)